



大原 広巳 議員

駅舎を観光拠点に

町長

自己負担という課題がある

〔大原〕 オリンピックや万博などの開催で、地方都市にも多くの外国人が訪れることが予想される。インバウンド対策や観光拠点として、大山口駅舎を活用すべきではないか。

例えば観光協会3支部の合同事務所は考えられないか。

〔町長〕 既に大山寺と道の駅に観光案内所がある。整備の自己負担もあり、むずかしい。まちづくり地区会議の提案も同じ課題がある。

〔大原〕 歴史的な大事件である列車空襲の展示が、パネルだけではないか。遺品はどうか。

〔町長〕 今は限られたスペースの中で、パネルの展示を考えている。

遺品の展示は、場所やセキュリティの面もありむずかしいが、できるだけ歴史を伝える努力を続けたい。



社会福祉協議会へ相談を

教育長

すみやかに

対応している

ひきこもり対策は

〔大原〕 近年、全世代にわたってひきこもる人が増えている。

いじめや不登校児童への対策は。

〔教育長〕 いじめなど問題行動は、初期の把握が出来次第、すみやかに対応している。

ほかに、人間関係や将来不安など、さまざまな問題にも対応している。

〔大原〕 ひきこもりは働き盛りの世代にもっとも多いが、対策は十分か。

〔町長〕 さまざまな相談にきめ細かく応じ、県の就労支援の事業を紹介している。

さらなる耕畜連携を

町長

推進していく

〔大原〕 町の堆肥センターの稼働率が落ちている。利用者減少は、補助金打ち切りが原因ではないか。

〔町長〕 それも一つの原因かもしれないが、価格としては、周辺の事業者より安いと思う。

〔大原〕 いずれにしても、耕畜連携による土づくりは、農業町として推進すべきと思う。

町長の方針は。

〔町長〕 堆肥の効果を、もっと広報していかなければならない。農協や普及所などと、さらなる協議を続けたい。



土づくりで品質の高い農産物を